

令和元年5月17日

千葉県農林総合研究センター長

I 向こう1か月の予報

発生量及び発生時期は平年との比較で表す。予想発生量は「多」「やや多」「並」「やや少」「少」で表している。また、予報の根拠の(+)は多発要因、(-)は少発要因であることを示している。

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
イ ネ	いもち病 (葉いもち)	並	育苗期発生量：並〔発生なし〕 気象予報：気温高(+) 降水量並	・ ほ場においた補植用取り置き苗は、発生源となりやすいので、早めに処分する。
	イネミズゾウムシ	やや多	2月越冬量：少(-) 5月上旬発生量：やや多(+) 5月上旬雑草地すくい取り量：並	・ 移植10日後ごろの飛来成虫数が2~3株に1頭以上の場合には、成虫を薬剤防除する。 ・ 移植10日後以降に成虫が多数飛来したときにも、薬剤防除する。
	イネドロオイムシ	やや少	5月上旬発生量：並 5月上旬雑草地すくい取り量：やや少(-) 気象予報：降水量並	・ 越冬成虫の本田侵入最盛期(5月中旬ごろ)の成虫数が10株に2頭以上の場合又は産卵最盛期(5月下旬ごろ)の卵塊数が1株に1卵塊以上の場合には薬剤防除する。
	スクミリンゴガイ (ジャンボタニシ)	多	5月上旬発生量：多(+) 気象予報：気温高(+)	・ 水田取水口に目合い5~10mmの網袋を設置し、侵入を防止する。 ・ 移植後3週間は水深4cm以下の浅水で管理する。 ・ 令和元年度病害虫発生予察注意報第1号を参考にする。
	ヒメトビウンカ	やや多	2月越冬量：多(+) 5月上旬雑草地すくい取り量：並 気象予報：気温高(+)	・ イネ縞葉枯病ウイルスを媒介する。 ・ 発生の多い年には飛来期の6月上中旬頃および出穂期ごろに、1~2回薬剤防除する。
	イネクロカメムシ	並	2月越冬量：やや少(-) 気象予報：気温高(+)	・ 発生の多い場合には成虫飛来期の5月中旬~6月に、薬剤防除する。
スイカ	つる枯病	並	5月上旬発生量：並〔発生なし〕 気象予報：気温高(+) 降水量並	・ ほ場の排水をよくする。 ・ 多湿を防ぐため、トンネルの換気を十分行う。

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
スイカ	アブラムシ類	並	5月上旬発生量：やや少（－） 気象予報：気温高（＋） 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> ・ 薬剤散布は葉裏まで十分かかるよう、ていねいに行う。 ・ 繁殖が早く、短期間で高密度となるため、防除適期を逃さず早期防除する。
	ハダニ類	やや多	5月上旬発生量：やや多（＋） 気象予報：気温高（＋） 降水量並	
ナシ	黒星病	並	4月下旬発生量：並 気象予報：降水量並	<ul style="list-style-type: none"> ・ 罹病した葉や果実は、伝染源となるので除去する。 ・ P3「これから注意を要する病害虫」参照。
	アブラムシ類	並	4月下旬発生量：並 気象予報：気温高（＋） 降水量並	
温州ミカン	そうか病	やや少	4月下旬発生量：並 気象予報：気温高（－） 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発生が多い園では、落花直後と梅雨期に薬剤の散布を行う。
	ミカンハダニ	やや多	4月下旬発生量：やや多（＋） 気象予報：気温高（＋） 降水量並	
果樹共通	カメムシ類	並	越冬成虫数：並 5月サクラ樹払い落とし調査 ：並 4月フェロモントラップ誘殺数 ：並 気象予報：気温高（＋）	<ul style="list-style-type: none"> ・ カメムシ類の発生量は、地域間差が大きいいため、果樹園への飛来状況は地域や園地により大きく異なる。そのため、園内外をこまめに見回り、発生を認めたら、飛来が多い夕方か活動の鈍い早朝に薬剤防除する。

II これから注意を要する病害虫

ナシ黒星病

黒星病の伝染経路は、罹病落葉に形成された偽子のう殻からの子のう胞子の飛散によるものと、芽基部病斑の分生胞子によるものがある。

子のう胞子は降雨後に飛散するが、早い年では3月下旬から5月下旬まで続く。飛散した子のう胞子は葉や果実等に付着し感染する。

芽基部病斑への感染は、芽りん片組織の感染から起こる。秋、発病部から雨によって腋花芽に分生子が流入すると芽のりん片組織が感染し、そこで越冬する。翌年、芽りん片で発病した黒星病は、開花10日前には芽基部病斑となる。芽りん片の発病率は幸水よりも豊水の方が高い。

<感染好適条件>

- 1 病原菌の生育適温は15～25℃（最適は20℃）である。
- 2 降雨等による一定の濡れ条件下（20℃の場合、濡れ時間が9時間以上）で感染する。
- 3 果実では、開花直後から20日後ごろに感受性が高い。ただし、「幸水」は開花55～90日後にも感受性が高くなるので注意する。

<防除法>

- 1 芽基部病斑の除去が、その後の蔓延を防止するうえで重要なので、見つけ次第除去し、適切に処分する。
- 2 発病葉、発病果実等は見つけ次第除去し適切に処分する。なお、幼果はどの品種も感染しやすいので注意する。
- 3 薬剤散布はかけむらのないよう、ていねいに行う。
- 4 それぞれの園での発生状況や今後の気象状況に留意し、防除適期を逃さないようにする。
- 5 治療効果のあるDMI剤は、耐性菌出現の可能性があるので、使用は年3回以内とする。

表1 5月中旬から6月上旬の黒星病防除薬剤

時 期	薬 剤 名	FRACコード	希釈倍数	使用時期／使用回数
5月中旬	ベルコートフロアブル（注1）	M7	1,500倍	収穫14日前まで／5回
5月下旬	有機銅フロアブル（注2）	M1	1,000倍	収穫3日前まで／9回
6月上旬	ベルコートフロアブル	M7	1,500倍	収穫14日前まで／5回

注1 黒星病の多発生が心配される場合は、ユニックス顆粒水和剤47の2,000倍液（収穫21日前まで／3回）とベルコートフロアブル1,500倍液を追加散布する。

注2 有機銅フロアブル剤には「キノンドーフロアブル」、「ドキリンフロアブル」がある。

表2 黒星病防除に使用する各薬剤系統の種類，使用回数の目安

系統 (FRACコード)	防除指針で の使用回数	殺菌剤の例（商品名）
DMI剤 (3)	3	マネージDF，スコア顆粒水和剤，インダーフロアブル，アンビルフロアブル，オンリーワンフロアブル，オーシャイン水和剤，オルフィンプラスフロアブル（注）
QoI剤 (11)	2	アミスター10フロアブル，ストロビードライフロアブル，ナリアWDG（注），ファンタジスタ顆粒水和剤，スクレアフロアブル
AP剤 (9)	1	フルピカフロアブル，ユニックス顆粒水和剤47
SDHI剤 (7)	1	ナリアWDG（注），アフェットフロアブル，パレード15フロアブル，フルーツセイバー，オルフィンプラスフロアブル（注），ネクスターフロアブル

注 ナリアWDGはQoI剤とSDHI剤の混合剤，オルフィンプラスフロアブルはDMI剤とSDHI剤の混合剤である。

（参考）

- DMI剤：黒星病，赤星病に卓効を示すが，国内で耐性の黒星病菌が発生した。
- QoI剤：黒星病，炭疽病に高い防除効果を示す。海外で耐性のリンゴ黒星病菌，国内で耐性の炭疽病菌が発生した。
- AP剤：黒星病に高い防除効果を示す。コムギ灰色かび病で耐性菌の報告があるが，ナシでは報告はない。
- SDHI剤：黒星病，赤星病に高い防除効果を示す。ナシでは耐性菌の報告はないが，キュウリ等では薬剤が流通した翌年から耐性菌が問題になる等，耐性菌の発生リスクが高い薬剤と考えられる。

参考資料

○主要病害虫の発生状況

巡回調査結果（水稲：4月中旬～5月上旬，スイカ：5月上旬，果樹：4月下旬，果樹カメムシ類：5月上旬）

作物名 (調査地域)	病害虫名	調査項目	調査結果			備考
			本年値	平年値	前年値	
イネ (県内全域)	いもち病	苗の発病度	0.00	0.00	0.00	
	籾枯細菌病	苗の発病度	0.02	0.22	1.82	
	苗立枯病	苗の発病度	0.04	0.21	0.72	
	ばか苗病	苗の発病度	0.92	0.17	1.55	
	イネヒメハモグリバエ	被害株率(%)	0.06	0.23	0.00	
	イネミズゾウムシ	成虫寄生株率(%)	1.30	1.09	2.46	
		被害株率(%)	6.07	3.48	14.87	
	イネゾウムシ	成虫寄生株率(%)	0.00	0.07	0.06	
		被害株率(%)	0.37	0.12	0.86	
	イネドロオイムシ	成幼虫蛹寄生株率(%)	0.06	0.18	0.16	
		被害株率(%)	0.07	0.10	0.16	
	スクミリンゴガイ	貝密度(/㎡)	0.53	0.10	0.06	
	イネミズゾウムシ	雑草地すくい取り成虫数	0.17	0.28	0.09	
イネドロオイムシ	雑草地すくい取り成虫数	0.10	0.47	0.28		
スイカ (山武・印旛)	つる枯病	発病葉率(%)	0.00	0.00	0.00	
	アブラムシ類	成幼虫寄生葉率(%)	0.00	0.68	2.40	
	ハダニ類	雌成虫寄生葉率(%)	0.40	0.18	0.00	
	ウリハムシ	25株当たり寄生成虫数	0.00	0.01	0.00	
ナシ (県内全域)	黒星病	発病葉率(%)	0.00	0.00	0.00	
		発病果率(%)	0.00	0.08	0.03	
	赤星病	発病葉率(%)	0.00	0.06	0.00	
	ハマキムシ類	被害葉率(%)	0.00	0.04	0.00	
	ハダニ類	雌成虫寄生葉率(%)	0.00	0.00	0.00	
アブラムシ類	成幼虫寄生新梢率(%)	0.87	1.21	0.21		
温州ミカン (安房)	そうか病	発病度	0.00	0.03	0.00	
	かいよう病	発病度	0.00	0.02	0.20	
	ヤノネカイガラムシ	成幼虫寄生葉率(%)	0.00	0.12	0.00	
	ミカンハダニ	雌成虫寄生葉率(%)	11.20	6.54	1.00	
	ミカンハモグリガ	幼虫寄生葉率(%)	0.00	0.00	0.00	
ビワ (安房)	灰斑病	発病葉率(%)	3.25	2.48	2.50	
	アブラムシ類	成幼虫寄生葉率(%)	0.00	0.05	0.00	
	カミキリムシ類	被害穴数	0.00	0.73	0.00	
果樹共通 (安房)	果樹カメムシ類	サクラ樹払い落とし虫数 (1網あたり捕獲成虫数)	0.89	1.95	0.69	

トラップ月間誘殺数（4月）

種類	病害虫名	トラップ設置場所	誘殺数(頭)			備考
			本年値	平年値	前年値	
水稲予察灯	イネミズゾウムシ	千葉，香取，安房	30.0	8.7	79.0	
	イネヨトウ	〃	0.0	0.3	1.0	
	ニカメイガ	〃	0.0	0.1	1.3	
果樹予察灯	チャバネアオカメムシ	安房	0.0	0.1	1.0	
	クサギカメムシ	〃	0.0	0.2	0.0	
	ツヤアオカメムシ	〃	4.0	0.7	2.0	
性フェロモン	コナガ	海匝	68.5	63.4	101.6	
	ハスモンヨトウ	県内全域	25.4	21.4	25.5	
	シロイチモジヨトウ	県内全域	0.0	0.8	0.0	
	オオタバコガ	県内全域	8.5	6.8	9.1	
	タバコガ	県内全域	0.6	1.4	0.0	
	ナシヒメシンクイ	東葛，印旛，香取	46.2	28.0	10.7	
	モモシンクイガ	東葛，印旛，香取	0.0	0.0	0.0	
	チャハマキ	印旛，香取	17.9	18.8	11.3	
	チャノコカクモンハマキ	印旛，香取	16.0	16.3	20.7	
チャバネアオカメムシ集合フェロモン	チャバネアオカメムシ	県内全域	10.9	22.2	25.5	
	ツヤアオカメムシ	〃	0.9	3.8	11.9	
	クサギカメムシ	〃	2.3	3.1	5.8	
	マルボシヒラタヤドリバエ	〃	30.3	11.3	8.2	

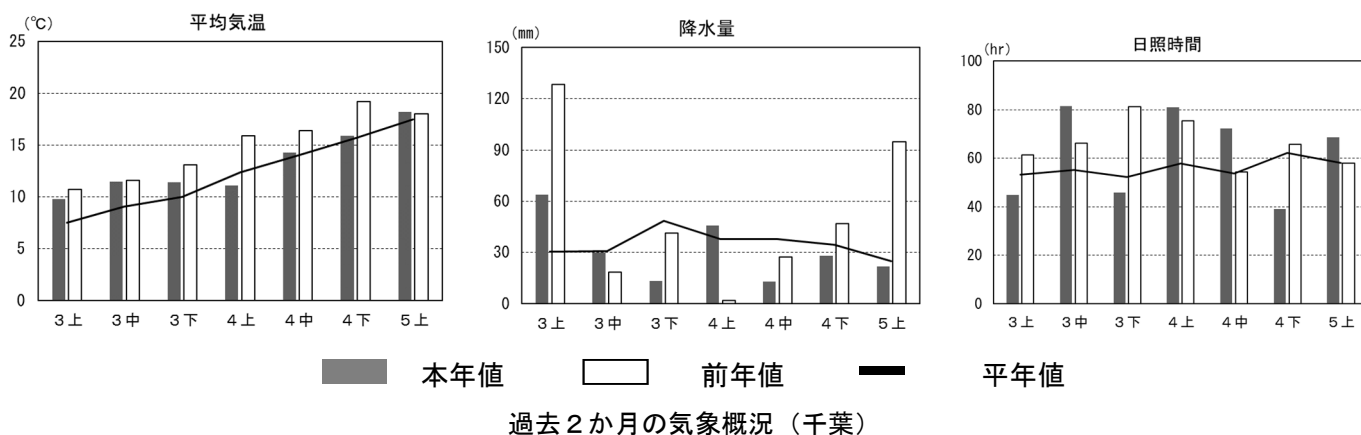
○気象予報

5月16日気象庁地球環境・海洋部発表
関東甲信地方における向こう1か月間の確率(%)

要素	低い・少ない	平年並	高い・多い
気温	10	30	60
降水量	30	40	30
日照時間	30	40	30

向こう1か月間の各気象要素の平年値
(5月17日～6月16日 銚子地方気象台資料)

要素	千葉	銚子	館山
気温(°C)	19.7	18.1	19.5
降水量(mm)	99.9	110.6	134.1
日照時間(hr)	142.4	152.0	146.3



農薬は適正に使用しましょう。無登録農薬の使用はできません。

- 農薬は、農薬取締法に基づいて、使用できる農作物の種類、適用病害虫、希釈倍数、収穫前日数、総使用回数などが定められています。
- 登録番号のない薬剤は、農薬として使用できません。登録農薬には必ず登録番号が記載されています(記載例 農林水産省登録第〇〇〇号)。
- 農薬はラベルをよく読んで適正に使用しましょう。
- 飛散しないよう工夫して散布しましょう。
- 農薬を散布したら必ず記帳するようにしましょう。
- タンクやホースは洗いもれがないようきれいに洗っておきましょう。

・病害虫発生予察情報はインターネットでもご覧いただけます。

<https://www.pref.chiba.lg.jp/lab-nourin/nourin/boujo/>

・次回の発行予定は6月12日です。なお、注意報等の臨時情報は逐次発行されます。

・薬剤の選定については、最新の農薬登録情報を確認してください。

https://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm

問い合わせ先

千葉県農林総合研究センター病害虫防除課

〒266-0006 千葉市緑区大膳野町 804

TEL 043(291)6077 FAX 043(226)9107

E-mail cafrc-bojo@mz.pref.chiba.lg.jp